



2020

今年もよろしくお願い申し上げます

理事長挨拶

新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、会員の方並びにご支援頂きました皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。たまり場の利用者やおかし屋・工房通所員のメンバー・ホーム入居者・いこっと住人の方にとりましては、行事活動や仕事・生活全般において大変充実した年となったと感じています。

さて、昨年の世情を振り返りますと、働き方改革から、残業時間の短縮や有休を積極的に取るよう奨励するなど、働く側の立場に立った、職場での意識改革が強く求められた年でした。取り分け福祉の現場は、政府が指導するようには中々薦めることが難しく、残念ながら、現場スタッフにかかった負担感は拭えない状況でありました。

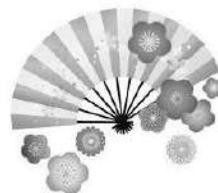
こうした中、主にスタッフの処遇面での条件整備に努力した年でもありました。キャリアパス制度に乗せた形で、給与体系の見直しやキャリアアップの道筋を明確にし、働く意欲を持ち続けられるよう改善を行ないました。しかし、財政が限られる中での法人経営は困難を極めることが多く、特にスタッフの流出には歯止めがかからない状況でもありました。今ぱれっとに何が起きているのか、何から手を付けたら良いのか、色々な問題が絡み合い、複雑化する中で、優先順位を付け、現場スタッフから生の声を聞くことで、目の前で起きていることをお互いの立場で「見える化」し、現場に寄り添う形で改革に取り組み始めたところです。

本年は、新たな展開の年ととらえています。1年かけてステークホルダーとともに勉強会を開き、これからのぱれっとをどうしていこうかというスローガンを立てたところです。1月の勉強会で言葉の表現や全体で納得感の持てる文章に仕上げていく作業に入ります。スローガンは、立てた本人たちの意識にブレが生じないように、また、外部から第三者が見たときにイメージしやすい表現にする必要があります。人が集まる組織、組織から人が離れない環境づくり、全ての要因は組織の中の人間が作っていることを自覚し、決して人のせいや組織のせいではなく、ましてや社会のせいでもないことを肝に銘じて、改革に取り組む覚悟でいきたいと思えます。

本年もご指導ご支援、どうぞよろしくお願い申し上げます。



（認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭）





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局▶

新年あけましておめでとうございます。2019年は、ぱれっとにとって、近年に無く試練の年となりました。各事業を統括する事務局も、人的、資金的マネジメントに例年以上に力を注がねばならず、各方面に様々なご協力を仰ぐ一年となりました。

そんな中であって、2020年は、来年から始まる「第6期渋谷区障害福祉計画」に向けて、策定作業を推進する一年となり、地元渋谷区の行政、他事業所などの関係者と密接な議論を重ねていく年となります。大きな課題のひとつが「人材確保と育成」。いわゆる「ハコ物」と言われる各施設の建設と、そこで働くスタッフの確保、育成はまさに両輪ですが、支援が必要な人がいて、提供できる場所や仕組みがあるのに、人手が足りずに実現できないという事態が各方面で出始めています。この状況の打破を含めて、ぱれっとの「新たなステージへの挑戦」が始まります。(事務局長 南山達郎)

たまり場ぱれっと▶

あけましておめでとうございます。昨年たまり場ぱれっとのスタッフとして関わり始めて、利用者さんやボランティアさん、他の職員さんと色々話をしてきました。今メンバーそれぞれが考えていること…ぱれっとの未来の姿、目指す障がい者と社会の在り方を知っていきたいと想っています。共感する人との未来を築く為、これからも関わる人たちと目的と想いを共有し、自分がどんな影響を与えられるかを考え、行動していきたい。2020年も、よろしくお祈いします。(職員 安野勇太)

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと▶

あけましておめでとうございます。2019年は新メンバー2名を迎え22名の通所員となりました。日々仕事に取り組んでこられたのも現場を支えてくださったボランティアの方々、協働の機会をいただいた企業・団体・行政の方々、商品を購入してくださったお客様おひとりお一人のおかげです。ご支援いただいた全ての方にこの場を借りて御礼申し上げます。昨年はモンゴルの障がい者就労の啓発や、アート方面にも通所員の活躍の場がますます広がった年でもありました。同時に通所員の高齢化や個別ケースへの対応…ひとり一人に合った多様な働き方の可能性を職員は模索し続けています。その原点は、誰もが社会の中で働きつながっていく可能性を支援するぱれっとの姿勢だと感じます。これからも広い視野で柔軟に、そして楽しさを忘れずに皆でやっていきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお祈い申し上げます。(所長 玉井七恵)



えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム▶

新年、明けましておめでとうございます。「あの時君は～若かった～」27年の年月の中で、障がい者を取り巻く制度や環境、障がいに対する社会の受け止め方は大きく変化してきました。一方で、誰も経験したことのない少子高齢化社会の中、福祉現場に求められる役割の大きさと、多様なニーズへの向き合い方が問われています。時代が変化するこの時期、模索や葛藤を繰り返す中で、今までの考えにとらわれず、組織として新たな道を見出す力が必要です。27年の年月を経て、今年還暦を迎える入居者がいる中、若いころの自立支援とは違い、本人の力や状況を見極めながら次の道筋を考えて備える事もまた、暮らしの現場で本人に寄り添う立場だからこそ必要とされる役割の一つです。

（施設長 菅原睦子）

ぱれっとインターナショナル・ジャパン（PIJ）▶

新年あけましておめでとうございます。昨年は、2月にケニアでストリートチルドレンを長年支えている「モヨ・チルドレン・センター」の子ども達との交流、5月にはモンゴルのAPDC（モンゴル障害児親の会）を訪問して9月のぱれっととの共同プログラムについて検討を重ね、9月21日に「働くということ」をテーマにウランバートルでイベントを実施しました。会場では同行した2名の通所員が堂々とクッキーとらぶらびづくりを披露し、来場者に「障がい者が社会で働く」ことの意味とその可能性を理解してもらおう機会を提供しました。今年の3月には、PIJは親や知的に障がいのある子どもたちに、働く現場での研修を計画しています。モンゴルの障がい者が社会で当たり前で生活ができるためには、関係者はこれからどのように取り組むべきなのか、ぱれっとは支援を続けます。今年も皆さまの応援を心からお願いします。（PIJ代表 谷口奈保子）

ぱれっとの家 いこっと▶

新年あけましておめでとうございます。昨年のいこっとは、入居者の入れ替わりもあり、入居者同士の人間関係を大切にしたり暮らしを模索したりした1年となりました。いこっとサポートの会では、入居者同士が円滑なコミュニケーションを取れる環境をつくれるようサポートをしてきました。障がいのある方が入居しやすい環境・仕組みづくりは、2020年の重点課題だと認識しています。いこっとの事業を通じて社会にどのようなメッセージを伝えていきたいのかを問い直し、中長期的な視点も含め、新たなチャレンジをしていく準備を整えていくことができればと思います。

（ぱれっと理事 サポットの会リーダー 黒澤友貴）